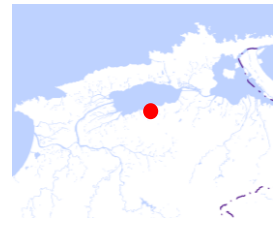


オリジナルブランド米の生産拡大を目指して有機JAS認証取得

1. 農事組合法人やない(松江市玉湯町林)

【設立】H16年4月
 【組合員】32名
 【経営面積】7.3ha
 【経営内容】水稲4.7ha、ソバ1.2ha、飼料用米1.3ha



2. 取組の経過及び概要

設立当初から無農薬・無化学肥料栽培、冬期湛水、不耕起栽培、成苗育苗を組み合わせた環境にやさしい農業を実践。

H18年7月にはエコファーマー制度を活用し、エコ農産物として販売。

無農薬・無化学肥料栽培を継続することで、田んぼで**多くの生き物との共存**ができてきたことから、慣行栽培とは差別化を図りオリジナルブランド化。

そのネーミングは地域住民から公募し、不耕起栽培米を「**とんぼ米**」、きぬむすめを中心とした無農薬・無化学肥料栽培米を「**エコロ米**」と名付け、個人向けに直接販売を開始。

R元年からは神戸市や鎌倉市の県外への販路を拡大し、引き合いも強いことから、R3年度には栽培面積を拡大。

さらなる有利販売に繋げるため、有機JAS認証への取得準備をR2年度から本格的に開始。

学習会に積極的に参加し、県機関や認証機関にも相談を重ね、「とんぼ米」、「エコロ米」を栽培していたほ場を中心に**有機JAS認証申請**。



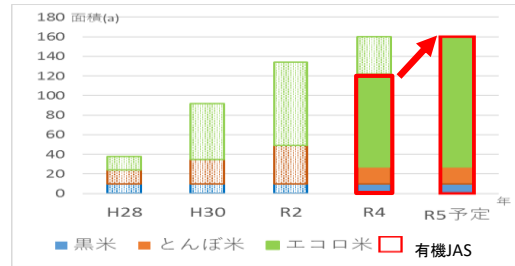
ブランド化した商品(左:とんぼ米、右:黒米)

3. 取組の成果

(1) 有機JAS認証取得面積の拡大

R4年9月15日の現地審査を経て、11月18日付け**122a**で有機JAS認証を取得。

有機JAS米生産拡大に向け、**R5年にはさらに38a**で有機JAS認証取得予定。



ブランド米栽培面積と有機JAS取得面積の推移

(2) 米づくり体験を通じた消費者への情報発信

販売先の消費者に参加を呼びかけて、田んぼの生き物調べや田植え、収穫体験などを通じて生産過程の理解を促すことで、有機JAS米本来の価値を情報発信。



R4年収穫体験会の様子

代表者から一言



薬剤や化学肥料に依存しない、田んぼの生き物と共存した無農薬での米づくりへの挑戦です。今後は有機JAS認証をステップとして法人の経営安定に繋げ、人や生き物すべてと共存できる地域づくりを目指します。

福間 悟 代表理事組合長(71歳)

4. 課題と今後の取組方向

- (1) 有機米生産量の確保に向けた面積・収量の拡大
- (2) 有機米のPR活動の強化
- (3) 有機米を柱に法人経営を安定させ後継者を確保